



2007
平成19年

10

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。お問い合わせ・ご意見は狛江市市民協働課へ

発行 ● 狛江市市民協働課
〒201-8585 狛江市和泉本町 1-1-5
☎ 3430-1111 FAX3430-6870
Email=wacco@city.komae.lg.jp
編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press
〒201-0012 狛江市中和泉 3-2-16
プランツベルツ 201
☎ 3430-6617 FAX3430-6743
Email=wacco@k-press.net

ニーズにこたえ次々と建設 市役所・公民館



旧庁舎 村・町役場、市役所として使われた旧庁舎。奥が建設中の現庁舎 1981年



市民センターオープン 1977年
みこしも出て完成を祝った

村時代の役場は狛江駅前の旧第一小学校の敷地内にあったが、昭和25年に現在の市庁舎の場所に庁舎を新築した。しかし、人口増加による事務量の増大で次第に手狭になり、プレハブの庁舎を建ててしのいだ。32年に用地約3300㎡を買収したが、学校や保育園など市民生活に直結した施設の建設が優先され、56年によ



うやく新庁舎が完成した。市民活動や社会教育の拠点となる施設は、市民ニーズにこたえて整備が進められ、福祉と社会教育の2つの機能を備えた福祉会館が47年、公民館と図書館の機能を備えた市民センターが52年にオープン。地域活動の拠点となる地域センターも51年の野川を皮切りに58年までに4館が開設された。

市役所の公開に市民の列

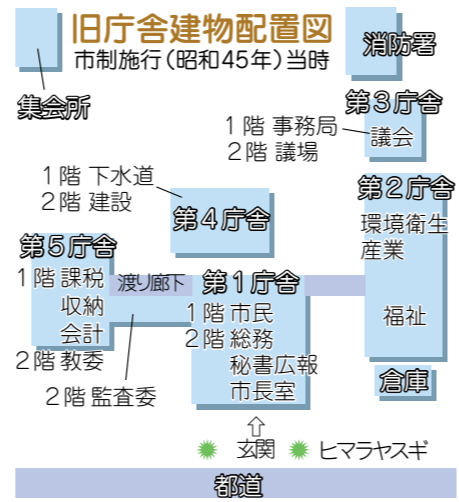
須田真立さん(67歳・岩戸南)の話 昭和45年に狛江町(当時)の職員になりましたが、この年の10月に市に昇格しました。当時の役場は木造2階建ての第一庁舎と数棟のプレハブ庁舎でした。第一庁舎は現在の市民ひろばの一画に都道に面して建てていました。新宿区役所をモデルにして25年に建てられたと言われるモダンな建物で、テレビや映画のロケにも、警察署や裁判所としてよく使われました。現在の市役所の建て替えには54年に着手しましたが、経費の節減を考えて、使わない建物や備品の引き取り先を探しました。新聞などで報道され、机などが次々にもらわれていき、第一庁舎も「交通遺児を励ます会」が資材を再利用することになり、解体して檜原村に運ばれました。



市役所 2007年

いまま「檜原ファイト村役場」として使われています。56年に鉄筋鉄骨造り5階建て、のべ床面積約10,700㎡の新庁舎が完成しました。その年の市民まつりの時、庁舎全体を市民に公開しました。どこも見学の市民の列ができて、すごい人気でした。正門前のヒマラヤ杉は旧庁舎建設の時に植えられ、市役所のシンボルツリーとして親しまれてきました。都道の拡幅で切られるところを市民の希望で残りました。

市民まつりのときに、イルミネーションを飾り、毎年好評でしたが、木に登れる職員がいなくなり、安全上の問題もあって、残念ながら数年で中止されました。



プレハブ集会所に喜ぶ

遠藤勝正さん(65歳・元和泉)の話 昭和40年に町の教育委員会(当時)に入りました。そのころの社会教育施設は、狛江駅北口にあった旧一小的敷地内の広さ100㎡ぐらいの木造平屋建ての建物だけで、「公民館」と呼ばれていましたが、正式な公民館ではありませんでした。元は村役場だった建物で、コンクリートの床の広さ86㎡のホールと和室があって、昭和32年から集会や講演会などさまざまな用途に使われまし



社会教育施設の拠点になったプレハブの集会所 1966年

た。昼は主に婦人団体に貸し、夜は青年学級が週3、4回開かれました。冬は寒くて、ストーブをたいてもなかなか暖まらなかったですね。働く青年などに学習の場を提供する青年学級は、狛江では28年に狛江中学(現・一中)に開設されました。その当時



市民センター 2007年

の狛江では唯一の社会教育活動と言える事業でした。41年に、現在の市役所駐車場辺りに「狛江町集会所」が建てられ、社会教育施設の拠点になりました。私はそこで青年学級などを担当していました。面積約230㎡ぐらいのプレハ

ブで、ホール、和室、料理教室、事務室があるだけのささやかなものでしたが、住民も職員も大喜びでした。この土地は市が購入する前は、テレビのウルトラマンの撮影などにも使われたこともあります。風の日は土ぼこりがひどくて窓が開けられず苦勞しました。

広がった若者の交流

田澤忠男さん(66歳・中和泉)の話 昭和34年に狛江へ越してきて、一小的の「公民館」にあった狛江の青年学級に通うようになりました。当時、狛江には町工場や会社の寮が多くて、独身の若者がたくさんいました。娯楽が少なかったこともあって青年学級に通う若者が多かったですね。青年団の活動とかけ持ちしている土地っ子もけっこういました。多い年には80人以上が通っていました。青年学級は、学ぶ機会が少なかった若者に学習の場を提供するのが目的で、茶道、華道に加えて、一般教養がありました。一般教養は年によって変わり、洋裁、ペン習字、ソロバン、料理、運転免許など実用的な講座もたくさんありましたね。私は茶道と教養を選びました。勤め帰りに1、2時間の講座を受けるのですが、みんな熱心でしたよ。講座のほか、レクリエーションも週1回あって、主にフォークダンスを校庭で踊りました。男女交際の機会が少なかったから、これが楽しみで通う人も多かったみたいです。私は38年に学級副委員長をやりましたが、当時数十人いた



ペン習字 1963年



茶道 1963年



料理 1966年



生活と発表 1966年

受講生のうち、結婚したカップルが数組あります。プレハブの集会所に移ってうれしかったんですが、市外から講師を呼んできて案内したとき、町役場の庁舎が立派で、集会所はその物置とかわらなくて、びっくりしたことも度々ありました。しかし、学級生の学習意欲にはみなさん驚かれましたよ。いまも「同窓会」を開いて交流している人も多く、私も狛江でたくさんの人と交流できるきっかけになりました。

建設へ女性パワー結集

酒見はま子さん(88歳・西和泉)の話 昭和42年ごろ、役場の裏にあったプレハブの集会所は1年に3,000回もの利用があって、借りるだけでもたいへんで、神社や銀行を借りたことも多かったですね。公民館を望む声は強かったの



南側から見た完成間近の福祉会館 1972年

で8,000枚ものビラをガリ版印刷して、全世帯に配りました。配り終わったのは日暮れでひざがガクガクしました。この提案が議会で認められ、47年に地下1階・地上5階建ての福祉会館がオープンしました。500人収容のホールもある立派な施設でした。市から、この館に「公民館」の看板をかけたいと言われましたが、公民館を市役所の敷地内に建ててほしいという要望が市民団体の間に強く、中央公民館建設に向けて議会に請願

するなどの運動を粘り強く続けました。52年に、図書館が併設された市民センターが完成したときは、ほんとうにうれしかったです。そして、市民グラウンドが、市民スポーツの拠点として残ってよかったと思います。

写真提供・取材協力=遠藤勝正さん、田澤忠男さん、酒見はま子さん、須田真立さん(順不同) 資料=『狛江市の民俗Ⅳ』『狛江市青年学級機関誌いなほ』『狛江市教育委員会』『萌動』(狛江市)